

# 都空連 ニュース

第2101号  
平成22年3月31日

発行 社団法人  
東京都空手道連盟

〒166-0001  
東京都阿佐谷北  
2-14-4  
阿佐ヶ谷北口ビル2F

TEL 03 (3223) 9002  
FAX 03 (3223) 9007  
ホームページアドレス  
<http://www.tokuren.jp/>

編集 都空連ニュース  
編集委員会

第37回全日本空  
手道選手権大会

## 女子団体戦堂々の2連覇

### 女子形で渡辺が3位入賞



組手女子団体戦で優勝するなど好成績を収めた東京都選手団



先鋒・廣瀬まり選手

平成二十一年十二月十二、十三日に日本武道館で「第三十七回全日本空手道選手権大会」が開催され、女子組手団体戦の部で東京都チームが優勝し、見事二連覇を達成した。

とにかく女子チームは強かった。全試合を中堅戦まで決めており、全く危なげない試合展開であった。先鋒・廣瀬まり、中堅・森友里恵、大将・高橋優子の三選手で試合に臨み、廣瀬、森の高校生コンビが伸びのある突きとスピードで他を圧倒し、決



中堅・森友里恵選手

勝まで駒を進めた。

決勝の相手は、そこまでの五試合中四試合を中堅戦で決めてきた熊本県。しかし、先鋒の廣瀬が七対〇で快勝すると、中堅の森が中段蹴りを二回決めるなど、最終試合をリードし、十一対五で勝利し、東京都優勝に導いた。

結局、大将の高橋の出番はなく、彼女にとっては、本人曰く「物足りない」ようだったが、高校生コンビにとっては大将に高橋がいてくれる安心感が、伸び伸びとした試合をさせる結果となったのだろう。

一方、男子チームは三回戦で宮城県と戦い、二勝二敗一引き分けまでもつれ込み、残念ながらポイント数でわずかに及ばず惜



大将・高橋優子選手

この悔しさをバネに、さらに強くなり、次回こそは団体戦で男女のアベック優勝、個人戦でも表彰台の一番高いところに立つてほしいと願う。



女子形で3位入賞の渡辺由希選手

また、個人戦では女子組手で団体戦で絶好調だった廣瀬が五位入賞、女子形では関東地区代表として出場した渡辺由希が三位入賞し表彰台に上った。

今回は、女子選手の活躍が目立ったが男子選手も決して悪くはなかった。松本拓也、渡辺大輔の両選手とも三回戦まで進み、後一步というところで入賞を逃した。しかも渡辺は二回戦目で肩を負傷し、三回戦は棄権せざるを得ないという残念な結果であった。

#### 組手のルールが変わりました

二十二年大会から採用  
平成二十二年大会より組手の試合ルールが変更になりました。都空連でも主催大会は全て新ルールを採用して開催します。

主な変更点を挙げておきますので、選手の皆さんはしっかりと覚えておいてください。そのほかの細かな点については、審判資格をお持ちの先生方や指導者にお尋ねください。

◆ポイントについて◆

①「一本」は上段蹴り及び相手を投げなどで倒した後の得点技だけでなく、足を滑らせたり、バランスを崩したりして自ら倒れた相手への得点技も認められる。倒れた状態とは、胴体部分がコート上についた状態(死に体)のこと。ひざまずいた状態などではない。

②「技あり」は中段蹴りのみ。

③「有効」は、突きや打ちによる得点技。これまでは「技あり」とされていた連続の有効な突きや、背面への攻撃、足払いなどによって、バランスを崩した相手への得点技も「有効」となる。

◆反則について◆

①危険な投げ(回転軸が腰より上や、相手の腰から下を抱え込んでの投げなど)による反則は、実際に投げなくても投げようとしただけで全てカテゴリー1の反則となる。

②相手に攻撃させないように掴みかかる(クリンチ)だけでなく、掴まなくても胸をつき合わせたりした場合はカテゴリー2の罰則。

◆その他◆

①同点の場合の延長戦は、先取りを廃止し、一分間の「再試合」となる。スコアボードは得点だけではなく、反則も無しの状態にする。

②三十秒前の「後しばらく」のコールを十秒前に変更。逃避行為などによる反則を明確にするため。また、終了前十秒未満の場外は、攻撃して踏み足になった場合を除き、カテゴリー2の警告。